

琉球大学学術リポジトリ

[原著]八重山地方における鼻アレルギーの実態

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学医学部 公開日: 2014-07-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 知念, 信雄, 源河, 朝博, 饒波, 正吉, 野田, 寛, Chinen, Nobuo, Genka, Tomohiro, Noha, Seikichi, Noda, Yutaka メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016493

八重山地方における鼻アレルギーの実態

沖縄県八重山病院耳鼻咽喉科

知念 信雄 源河 朝博

琉球大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

饒波 正吉 野田 寛

はじめに

鼻アレルギーは、地域の環境因子によってかなり異なった様相を呈すると言われており^{1)~4)}、地域特異性を十分に踏えた上で実際の診療に当ることが重要であると思われる。

著者らは⁵⁾、前回沖縄本島における鼻アレルギーの実態について報告したが、今回は沖縄本島よりもさらに南に位置し独特の自然環境を有する八重山地方において、同様な調査を試みたので、その結果について報告するとともに、若干の考察を加えてみた。

調査対象および方法

調査は、昭和56年2月から11月までに県立八重山病院耳鼻咽喉科外来を受診し、問診と耳鏡所見により鼻アレルギーが疑われ、皮内テストが施行された73名の患者を対象とした。

対象患者について問診表による背景調査を行なうとともに、臨床検査として副鼻腔X線検査、血中および鼻汁中好酸球検査、血清 IgE 測定な

らびに皮内テストを施行した。

皮内テストには鳥居薬品製のアレルゲンエキス12種を用い、膨疹 9 mm以上または紅斑 20 mm以上を陽性とした。アレルゲンエキスの内訳は、ハウスダスト、ブタクサ、ススキ、カナムグラ、クロマツ、アスペルギルス、クラドスポリウム、アルテルナリア、ペニシリウム、カンジダ、キヌ、メンの12種である。

調査結果および考察

1. 対象患者の年齢分布 (Fig. 1)

対象となったのは6~64歳の鼻アレルギー患者73名であり、男性30名、女性43名で女性がやや多い傾向にあった。男女比については、15歳以前では明らかに男性が優位となっているが、15歳以降では全く逆の傾向を示し、とくに20歳代では全例を女性が占めていた。40歳以降ではほとんど男女差は認められなかった。思春期を境にした男女比の逆転は、前回の著者らの報告とほぼ同様の傾向を示していた⁵⁾。

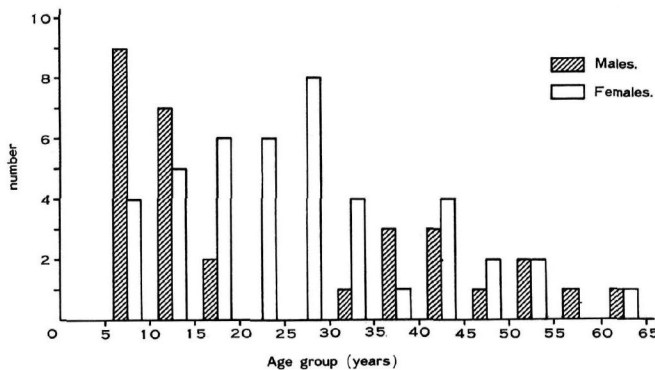


Fig. 1. Age groups of cases.

2. 既往歴および家族歴 (Table 1, 2)

既往歴では73例中45例, 61.6%にアトピー性疾患が認められ, アレルギー性結膜炎が52.1%と最も多く, 以下喘息17.8%, 蕁麻疹9.6%, アトピー性皮膚炎8.2%の順であった。

奥田⁶⁾によれば, アレルギー性鼻炎における喘息の合併は成人で24.6%, 小児で57.0%であったという。今回の調査で喘息の既往歴を有する者が比較的少なかったのは, 当院では当科アレルギー外来が開設される以前から小児科に喘息外来があり, 喘息を合併する鼻アレルギー患者の多くが小児科で治療を受けているためと思われた。

アトピー性疾患の既往歴を有する者と有しない者は, ほぼ同数であった。

3. 発症年齢および経過年数 (Fig. 2, 3)

鼻アレルギーは6歳から10歳の間に初発する者が最も多く, 20歳代に第2のピークが認められた。経過年数は5年以内の者が大部分を占めていた。

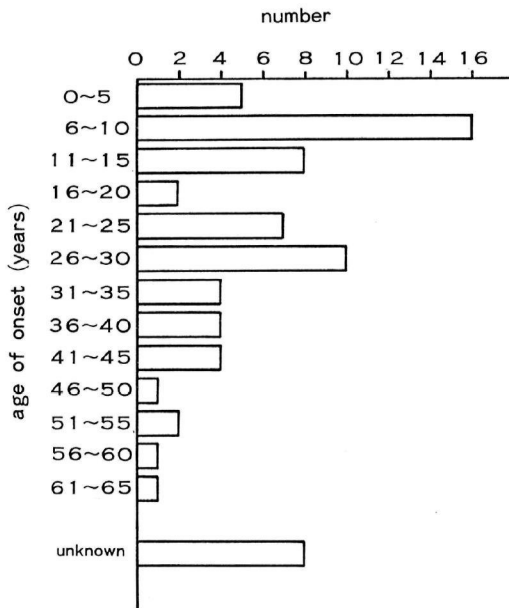


Fig. 2. Age of onset of nasal allergy

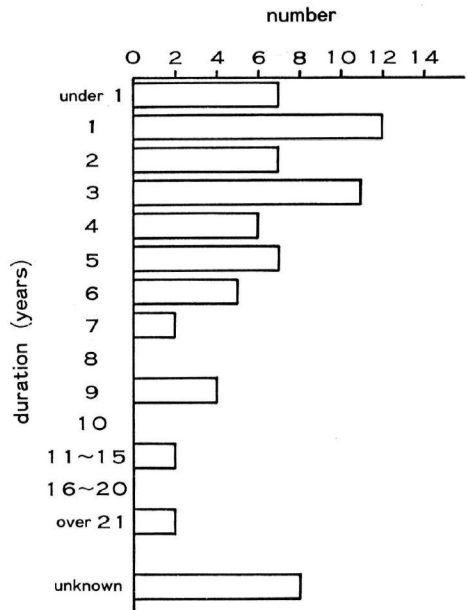


Fig. 3. Duration of nasal allergy

Table 1. Past history

Atopic disease (+)	45 (61.6%)
Allergic conjunctivitis	38 (52.1%)
Asthma	13 (17.8%)
Urticaria	7 (9.6%)
Atopic dermatitis	6 (8.2%)
Drug allergy	4 (5.5%)
Atopic disease (-)	23 (31.5%)
Unknown	5 (6.8%)

Table 2. Family history

Atopic disease (+)	18
Atopic disease (-)	19
Unknown	36

奥田⁷⁾は、鼻アレルギーの発症年齢は10歳以下に多いが、花粉症の発症は20～30歳代にピークがあるとしている。また荻野ら⁸⁾によれば、性別により発症年齢の違いが認められ、男性では10歳以下、女性では20歳代に発症のピークが認められたとしている。これは鼻アレルギーが発症年齢により2つのタイプに分けられることを示唆している。

4. 好発季節 (Fig. 4)

鼻症状は季節性に生ずる者が多く、冬に症状が悪化しやすく、夏には軽快しやすい傾向にあった。これは前回の沖縄本島における報告⁵⁾と同様に、本土の他の地域とは異なった傾向にあったことが注目された。

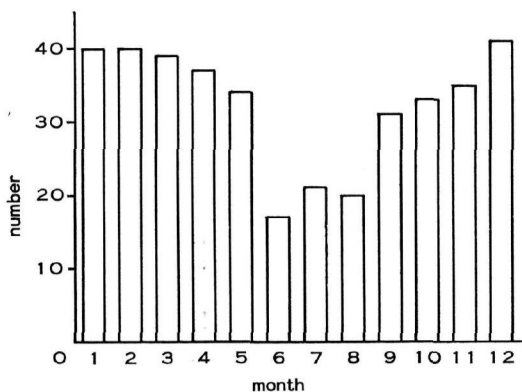


Fig. 4. Seasonal incidence of nasal allergy

Seasonal	39 (53.4%)
Non-seasonal	21 (28.8%)
Unknown	13 (17.8%)

5. 臨床検査

副鼻腔X線検査では、73例中22例、30.1%に上顎洞に陰影が認められ、両側性、びまん性の者が多数を占めていた (Table 3)。

血中好酸球は、50例、68%に増多が認められたが、そのほとんどが6～10%の軽度上昇であった (Table 4)。

鼻汁中好酸球検査では、45例、62%が陽性を示した (Table 5)。

これに対して血清IgE値は、約1/4が上昇を示したに過ぎず、50例、68.5%は正常範囲であった (Table 6)。

Table 3. X-ray examination of paranasal sinuses

Shadow (+)	22
bilateral	17
unilateral	5
diffuse	14
marginal	8
Shadow (-)	30
Unknown	21

Table 4. Blood eosinophil counts

0 -- 5 (%)	21 (28.8%)
6 -- 10 (%)	34 (46.6%)
Over 11 (%)	16 (21.9%)
Unknown	2 (2.7%)

Table 5. Nasal eosinophilia

(-)	22 (30.1%)
(+)	24 (32.9%)
(++)	12 (16.4%)
(+++)	9 (12.3%)
Unknown	6 (8.2%)

Table 6. Serum IgE Values

Normal range	50 (68.5%)
Elevated	18 (24.7%)
Unknown	5 (6.8%)

Table 7. Results of skin tests

	positive number	rate (%)
House dust	52	71.2
Ragweed	18	24.7
Japanese pampas grass	2	2.7
Moraceae	2	2.7
Japanese black pine	0	0
Aspergillus	1	1.4
Cladosporium	1	1.4
Alternaria	4	5.5
Penicillium	0	0
Candida	12	16.4
Silk	20	27.4
Cotton	27	37.0
All negative	14	19.2

Table 8. 14 cases who showed all negative in skin tests

Name, age and sex of patients	Blood eosino	Nasal eosino	Serum IgE
1. S. M. 6 ♂	↑	(-)	→
2. K. H. 9 ♂	↑	(+)	↑↑
3. S. H. 15 ♂	↑	(-)	→
4. H. K. 42 ♂	→	(+)	→
5. T. H. 52 ♂	↑	(+)	→
6. S. K. 58 ♂	↑	(+)	→
7. N. M. 12 ♀	↑	(-)	→
8. A. K. 22 ♀	↑	(+++)	→
9. M. H. 25 ♀	↑	(-)	→
10. M. M. 30 ♀	→	(+)	→
11. K. H. 41 ♀	↑↑	(?)	→
12. O. K. 45 ♀	↑	(++)	→
13. N. N. 46 ♀	↑	(+)	→
14. T. T. 54 ♀	↑	(+)	→

6. 皮内反応陽性率 (Table 7)

Table 7 は、対象患者73名に施行した皮内テストの結果を示したものである。陽性率はハウスダストが71.2%ともっとも高く、以下メン37.0%、キヌ27.4%、ブタクサ24.7%、カンジダ16.4%、アルテナリア5.5%の順となっている。73例中14例、19.2%は12種のアレルゲンすべてについて陰性であった。

この結果は、沖縄本島における報告⁵⁾と同様に、ハウスダストがかなり高率となっているが、花粉類や真菌類は比較的低い陽性率を呈している。八重山地方においても、高温多湿な気候条件がダニの生育に好結果をもたらしているのではないかと推測された。

メンやキヌの陽性率が比較的高くなっていることに関しては、非特異的反応が含まれている可能性も考慮に入れる必要があると思われた⁴⁾。

7. 皮内反応陰性例について (Table 8)

Table 8 は、12種のアレルゲンすべてについて陰性となった14例の検査成績を示したものである。血清IgEは1例のみが上昇を示したに過ぎないが、大部分が血中好酸球増多および鼻汁中好酸球陽性を呈し、いわゆる血管運動性鼻炎ではないかと思われる例はごくわずかであった。この中には八重山地方独特の花粉アレルギー症例が含まれている可能性も否定できず、市販のアレルゲンエキスだけではアレルゲン検索が不十分であると思われた。

ま と め

沖縄県八重山地方において鼻アレルギーの実態調査を行ない、以下の結論を得た。

1) 鼻症状は冬期に増悪しやすい傾向にあった。これは沖縄県全体の鼻アレルギーの特徴であると思われた。

2) 沖縄本島と同様に、八重山地方でもハウスダストの皮内反応陽性率が非常に高いことが注目された。

3) 皮内反応陰性例のほとんどが血中好酸球増多および鼻汁中好酸球陽性を示し、未知の抗原によるアレルギーの存在が示唆された。

(本論文の要旨は、第14回日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会学術講演会において発表した。)

参 考 文 献

- 1) Mygind, N. : Nasal Allergy, P 145 - 148, Blackwell Scientific Publications, Oxford, 1979.
- 2) 清水章治: 各地域における特色: 横浜におけるアレルギー疾患の特色, 耳鼻咽喉科 45, 739 - 744, 1973.
- 3) 形浦昭克: 各地域における鼻アレルギーの特色 - 花粉症を中心に -, 耳鼻咽喉科 45, 757 - 768, 1973.
- 4) 打越 進, 戸川 清, 今野昭義, 東 紘一郎, 山崎義春: 秋田地方における鼻アレルギー症の臨床 - 地域特異性の観点から -, 耳鼻咽喉科 50, 317 - 323, 1978.
- 5) 知念信雄, 饒波正吉, 野田 寛, 真栄城徳佳, 清水章治, 信太隆夫: 沖縄県における鼻アレルギーの実態. 琉大保医誌 3, 387 - 394, 1981.
- 6) 奥田 稔: 鼻アレルギー診療の実際 (第4版), P 39, 金原出版, 東京, 1979.
- 7) 奥田 稔: 鼻アレルギー. 光井庄太郎, 小林節雄, 中村 晋編; アレルギークリニック, P 417 - 418, 金原出版, 東京, 1979.
- 8) 荻野 敏, 大川内一郎, 原 万里子, 松永亨: 大阪大学における鼻アレルギーの現況 (第1報). 耳鼻咽喉科 53, 431 - 436, 1981.

A Study on Nasal Allergy in Yaeyama

Nobuo CHINEN and Tomohiro GENKA

Department of Otorhinolaryngology, Yaeyama Prefectural Hospital

Seikichi NOHA and Yutaka NODA

Department of Otorhinolaryngology, School of Medicine, University of the Ryukyus

We are reporting a fact-finding study on 73 patients with nasal allergy in Yaeyama archipelago, Okinawa prefecture.

The results are as follows :

1. It showed a different tendency from the previous reports in the other places in Japan that nasal symptoms become worse in winter. Probably, this tendency is a characteristic of the whole of Okinawa islands.
2. A major allergen of nasal allergy in Yaeyama was a house dust, which indicated a very high rate as well as in main island of Okinawa.
3. It was suggestive of the existence of an unknown allergy, because most cases of negative skin tests showed an eosinophilia in blood and nasal smear.